http://decfamily.p1.bindsite.jp/2012/

We 15R

No.120　12/12/11

ほめられる

　ほめられた…って、「私が」ではない。「君たちが」である。珍しいこともあるものである…って、担任がそんなことを言ってはいけないな、ははは、反省反省。

　で、誰にほめられたのかというと、日本史のＮ里先生である。朝、校務室で出会って「おはようございます」とご挨拶申し上げたところ、「ほとちゃん、今回のテスト、15Rは全体的にがんばったよ～」とのこと。「１学年全体で３番目くらいかな。中間層が頑張ってるのがイイねぇ～。」ということで、続いて、がんばった面々の具体的な名前を何名か出してほめてくださった。

　その後、国語科で仕事をしていると、わざわざ採点の終わった答案を持って来て見せてくださった。

＊

「これが今回の答案。」

「へぇ。あ、先頭の●●、●●点！　すごいじゃないですか…って、100点越えてますが（笑）？」

「そうそう、今回は145点満点。いっぱい出したからね～。●●はクラスで２番かな。転校してきた●●なんか、最後のところで力尽きちゃったけど、もう少し日比谷の日本史になれれば、もっとよくなるよ～」

「へぇ～たいしたもんですねぇ～。」

「今回は、●●とか、●●とか、●●とか、がんばったし、●●か●●とか、中間層が伸びたね。●●は（休んだから）追試やったんだけど、まあまあかな。」

「先生、男子はどうですか？」

「男？　男なんて知らないよぉ～」

「まあ、そう言わないで、誰かがんばった者がいるでしょう？」

「そうだなぁ～、今回は●●とか●●とかががんばってたかな。」

「その二人は古典もイイ点でした。」

「●●も点数はまあまあなんだけど、斜に構えていて学校のことをキチッとやらないね、何ごともちゃんとやれば伸びるのにね。」

「あれ、●●とか●●、●●は思ったより点数が取れてませんね…。理系の志望だからですかね？」

「理系だろうが何だろうが、一年の今の時期からそんなんじゃダメだよ。暗記はすべての勉強の基本だし。」

「あっ●●もこんな点だ！　家に電話しようかな（笑）。先生、●●には電話が一番効くんですよ。」

「●●は先ず授業に集中しないとダメだね」

「●●さんとか●●さんは、まじめなんだけど点数が取れてませんねぇ。授業もよく聴いていると思うんですけど…」

「でも、そういう子は、結局最後にはイイ結果を出すから、心配いらないよ。とにかく、15Rは今回よくがんばった。記述式の答えにも「厚み」が出てきたし…」

「じゃあ、授業の時に先生からも、ぜひほめてやってください。」

＊

　で、ほめられた？